

問題解説 第1回

1 出典：重田園江『ホモ・エコノミクス―「利己的人間」の思想史』

まず設問をしっかりと読みましょう。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】は同じ作者の同じ出典（本）からの問題です。同じ話題の内容が別の見方で書かれていると考えるべきでしょう。

また文章の後にある注を確かめて読む必要があります。

問一

傍線部（1）「スーパーで買い物するとき」（8行目）は筆者が「自分の利益を第一に考えて行動すること」の具体例として挙げているものです。設問では「このとき人が一般的にしていること」が問われています。つまり、スーパーで買い物をするとき自分の利益を考えてがやっている多くの人がしていることは何かが問われています。10字以内の指定ですから、簡潔に述べられている部分になります。

同じ段落に「予算はだいたい決まっていて、私たちはそのなかで一番いい配分でいろいろなものを適量ずつお得に買おうとする。」（12行目）という表現があり、これが正解の内容にあたります。ただこれだと10字には収まりません。次の段落の18行目にある「取引における最適行動」（10字）はこれを言い換えた部分ですのでこれが正解になります。

問二

「近代性」と強調している理由が問われています。ホモ・エコノミクスは問一で考えたように取引において最適行動をすることを理想として「お得」を求める人たちのことでした。しかし、彼らのこうした行動は「近代以前には一般的な価値観ではなかった」（24行目）といます。お金持ちが尊敬される時代は近代以降だったということです。

設問の要求にそって解答を整えましょう。私たちにとって一般的（つまり普通）な「自分の利益を第一に考えて行動し」（8行目）「合理的」（1行目）に考える人の「ごく普通」（8行目）もしくは「一般的」（16行目）なのは近代以前にはなかったということです。これらを解答欄の大きさに合うように簡潔にまとめましょう。

問三

傍線部（3）（56行目）にある「こうした歴史」とは直前の「金儲けが道徳」（54行目）と呼ばれるようになるまでに新しい道徳の見方が生まれたことが述べられている部分を指します。金儲けはそれ以前はキリスト教道徳によって「非常に嫌」（45行目）われており、その「抵抗感がなくならなければ」（49行目）新しい道徳に対する考え方は生まれなかったということになります。

選択肢のAは「外国製品や商取引による市場化」を問題にしており、Iは「利子により」「資本を殖や」すことが取り上げられ、いずれもこの部分の話題から外れています。Uは「金

儲け」が道徳になったことが述べられている部分ですから反対です。よって正解はエということになります。

問四

傍線部(4) 79行目の「根本的に誤った価値観」とは65行目から始まる「先送りにされていた問題」に関わっています。ここで述べられているのは「資源の食いつぶし」「増えすぎた人口」「土地や資源」が残されていないこと、「人間以外の生物や環境」が「悲惨な目に遭っている」ことなどです。それは「経済成長は生活の豊かさをもたら」(59行目)すという20世紀に生まれた価値観がきっかけになったとあります。これらを3行でまとめましょう。「なぜですか」という理由が問われていますので、解答の文末は「から。」で止めるのが標準的です。

問五

「一八世紀の富と徳の問い」(82行目)とは、【文章Ⅰ】の中では問三で考えたように、富の追求が道徳的な抵抗感とぶつかり合っていた状態に表れたものです。金儲けすることに罪悪感が意識されていた時代の疑問であると言えます。71行目からはじまる「富を得ることは～道徳的に許される生き方なのか。」の部分がその具体的な内容です。

【文章Ⅱ】ではアダム・スミスの功績を述べ、「徳と富」に関する考え方が述べられています。

まず「富」については137行目に「自由貿易と産業による豊かさを奨励した」とあるのが簡潔にまとまった表現です。しかし、アダム・スミスはこの豊かさ、つまり財産の追求は、「深刻な道徳的影響を与える」(104行目)ものであり、「徳の追求とは両立し難いと考えていた。というより、本来両者は別のものなの」(133行目)で、「少数のまともな人間として徳の道を選ぶこと」(136行目)が必要だと述べています。

これらを3行の文章にまとめます。

問六

空欄を補充する問題です。Aはそれより前の部分に「～ではない。」で終わる補足を付け加えていることとなります。「ない」と打ち消している内容につなぐためには逆接の「しかし」が入ります。Bは前で述べた内容に内容を付け加えています。「しかも」がその役割を果たします。Cは程度の大きいものを後で述べる流れです。「むしろ」が入ります。Dはもう一つ話題を加える「そして」が入ります。

問七

漢字の問題です。同音異義語もありますので、文脈に適した文字を書きましょう。

問八

アはホモ・エコノミクスがキリスト教道徳から生まれたというのが間違いです。43 行目から始まる段落で、キリスト教道徳は金儲けのような行動を嫌っていたとあります。

イは「金持ちが尊敬され、貧乏人は嫌われる」という考え方は、20 世紀になり問われなくなりましたが、それはアダム・スミスの業績ではありません。問五で考えたようにスミスは徳の大切さも指摘していました。

ウはアダム・スミスが財産の追求とともに、道徳の重要性も考えていたと【文章Ⅱ】で述べられており、これが現代のホモ・エコノミクスを考えるヒントとなると述べていることになります。これが正解です。

エは富(道徳)と得(利益の追求)とが同じ性格のものと述べているところが間違いです。この文章では「自己利益の主体=ホモ・エコノミクスが、根本的に誤った価値観と結びついているのではないか」(79 行目)と考え、道徳の意味を再考すべきだと述べています。

2 戸森しるこ『ココロノナカノノ』

問一

語句の問題です。設問ごとに指示がありますので、それに従って解答しましょう。

1は「肩で風を切る」、2は「胸を張る」、3は「鼻高高」、4は「得意満面」、5は「あごで使う」ですが、「顎」という漢字でも正解です。

問二

(一)「この」は直前を指す言葉ですが、この話の場合 25 行目あたりから、クラスの女の子たちに話をしたエピソードが挟まっています。そこでその前を探すと、15 行目から始まる「なつかしいみたいなおい」(16 行目)の話があります。ここを字数に合わせてまとめます。

(二)話を「誰にもしなくなった」のは、クラスの女の子たちに「かわいそう」といわれたことから、「わたし」がたどり着いた結論です。38 行目から始まる段落で述べられる「経験しなくちゃわからない気持ち」があることを考え、「しかたがない」と思ったことになります。

問三

慣用句の問題です。「蚊の鳴くような声」が正解です。「蚊」は小学校では習わない字なのでひらがなでも正解とします。

問四

比企さんにとってのスウについて書かれているのは85行目からです。比企さんには目には見えないスウという友達がいてその人が本当にいるように話す。それが「わたし」にとっての野乃と似ていると思うのです。一方で106行目からは違いについて考えています。野乃は存在していたことがあったのに対し、スウはあくまで空想の人物なのです。ただ、その違いはあっても目に見えないけれども大切な存在であるという共通点はあると考えているのです。解答では、「わたし」が考える野乃とスウの相違点と共通点を説明しましょう。

問五

118行目から「わたし」に新たな家族ができる話が始まります。家に帰ると両親が食卓の椅子に座っています。この小説では「奈菜ちゃん」と呼ばれていますが、この人は「わたし」の母親です。普段はそばを食べない母親がなぜかそばを食べています。「わたし」はこれを不思議に思うのですが、母親が妊娠したということを知って「妊娠すると食事の好みが変わる」(156行目)ことを思い出します。以上のストーリーから問題を考えましょう。

食卓の上にそばがあったとき、「わたし」は「不気味」とさえ感じます。(133行目)それが母親の妊娠を知り、そのわけを悟ったということになります。以上を踏まえているのはアです。

イは「気が変わった」だけでは説明が不十分です。ウは「父と一緒にいる時がおかしいの」に加え、「寧音の気持ちを確かめている」も合っていません。エは「配慮」がどのようなものかわかりません。またそれがなぜそばを食べることで達成できるのかも説明できません。

問六

傍線部の中にある「そう思った」の内容は、「今度は本当に、『おねえちゃん』って呼ばれる」(166行目)ことに対する期待感であり、喜びでもあるのですが、「胸の中がチクリとした気がした」のはここまでこの小説で語られてきた野乃の存在と関係があります。新たに家族を迎えることを喜ぶことは、いままで心の中に生きてきた野乃の存在を無視したり、軽んじたりすることにつながるのではないかと心を痛めているのです。解答では喜びとうしろめたさという、相反する気持ちを答えましょう。

問七

擬態語・擬音語の問題です。Aは泣いているさまを表す「しくしく」が、Bは梅雨時の教室の状態を表す「じめじめ」が、Cは幸せそうな家族の会話の中にあるので「うきうき」となります。

問八

本文の内容に合うものを選ぶ問題です。

アは「追悼の思い」のような深刻さはありません。

イは「落胆し」たのではなく、なぜ自分が「かわいそう」なのかが分からなかったのであり、「あきらめずに私に聞いてくれる子」(47行目)を求めているのですから、「自分の経験を話すはやめようと決めている」わけではありません。

ウは「野乃の存在を母はすっかり忘れてしまったのか」という疑問は文中からは読み取れません。最後の一文にある「チクリ」(169行目)はあくまで「わたし」の中に生まれた気持ちです。

エが正解です。寧音は自分と同じような感覚をもっている比企さんに対して同情しており、まりもや靱山の取る行動に対して「放っておけばいいのに」と批判しています。